

鋼橋技術研究会
海外橋梁技術研究部会
架設技術研究分科会

昭和 6 1 年度研究成果
報 告 書

昭和 6 2 年 3 月

まえがき

海外橋梁技術研究部会、架設技術研究分科会は、次の活動目的の下に、活動을續けて居ります。

- 1) 海外橋梁の設計・製作・架設に関する諸技術を調査研究する。
- 2) 海外技術の社会的背景やプロジェクトの進め方について調査研究する。
- 3) 海外技術と国内技術を比較検討し、我国の技術へのフィードバックと海外物件対応への糧とする。

61年度の研究活動では、具体的な橋梁実例を挙げて研究するものとし、国の内外に最も話題の多い斜張橋形式に焦点を絞ることと致しました。研究対範圍は1980年代に建設された斜張橋とし、以下の諸点に着目して居ります。

- 1) 海外の斜張橋の構造特性、設計思想、製作技術と架設技術の関連性、架設技術そのものなどの概要を把握する。
- 2) 国内橋梁も含め、架設技術の横断的比較検討を実施し、国内技術と海外技術の相違点の有無を明らかにする。
- 3) 海外の斜張橋架設技術の発展性・方向性を推論する。
- 4) 我国へのフィードバック技術や国内技術の発展の方向性を推測する。

本報告書の内容は、上記の研究目的を達成するに当たっての資料収集とその整理が終了した段階のものであり、未完成品ではありますが、61年度の研究成果として中間報告させて戴きます。